

M055

Sept. 1/14:30-14:55/Bld2 R302

**An Investigation of the Relationship Between
Vocabulary Size and TOEFL(R) ITP Scores
TOEFL(R)テスト ITP スコアと語彙サイズとの相関分析**

T. Kanamaru (Kyoto U.)

いわゆる「英語力」の指標を考える場合、さまざまな観点からの議論が可能であろう。しかし、客観的な尺度というものを考えたとき、よく言及されるものの一つが TOEFL テストのスコアであることは多い。

本発表では、京都大学の田地野 彰教授の研究室が実施した、高校・大学にまたがる TOEFL ITP スコアと語彙サイズとの相関について調査した結果について報告する。本調査は、TOEFL により測定される「英語力」と、英語技能の中核ともいえる語彙力との関係を探ることにより、「英語力」強化に向けて学習者に対し、スコアに応じた適切なフィードバックをどのように行えばよいかについて検討するための基礎的なデータを提供するものと考えられる。

本調査で用いた語彙サイズテストは、Nation & Beglar (2007)で紹介されたものをベースにしている。Nation & Beglar (2007)の語彙サイズテストは、BNC の頻出語 14,000 語を基準として作成されたものである。オリジナルは英語の語彙の意味を四択の英語の中から選ぶ形式であるが、本調査では、日本語話者向けに選択肢を日本語に翻訳している。

調査の概要、ならびに調査結果は次の通りである。調査人数は 366 名で、うち 147 名が大学一年生であり、残り 219 名が高校三年生である。調査対象全体の TOEFL ITP スコアは、最低が 317、最高が 603、平均が 416.8 であった ($SD=50.91$)。一方、語彙サイズは、最低が 3,100 語、最高が 10,400 語、平均が 7,033 語 (Word Family 換算) であった ($SD=1246.42$)。

全体を通して見ると、概ねスコアと語彙サイズとの間に相関が見られた ($r=0.60$)。しかし、団体ごとに見てみると、相関の傾向に違いが存在した。語彙サイズがスコアに与える影響が比較的強ければ、語彙の指導が有効であると考えられる。一方、語彙サイズ以外の側面の影響が強い場合には、そのグループに対してはスコアに応じた適切な指導が必要であることが示唆される結果となった。

M056

Sept. 1/16:00-16:25/Bld1 R301

**Learning from Corporate Websites:
An ESP Approach to Teaching Business English
ビジネス系学部生のための ESP の実践：
企業の Web サイト記事を用いた「企業英語」の取り組みについて**

Y. Shibuya (Kanda U. of International Studies)

近年の経済のグローバル化によって企業活動はボーダレス化し、職務に直結した外国語運用能力の必要性は高まり続けている。一方で、企業を取り巻く厳しい経営環境から、即戦力として活躍できる人材の育成が大学教育に求められている。ビジネス分野の ESP 教育が、そのような人材の育成にどのように貢献できるのかが問われるところである。

本報告は、企業の Web サイトの記事を活用した「企業英語」の試みについて紹介する。企業の Web サイトは、今日、ビジネス上の重要なマーケティング・ツールの一つとして認識されている。グローバル展開する企業の英語版サイト (グローバルサイト) には、優れたビジネス英語表現が使われており、企業の経済活動や社会的活動に関するあらゆる情報が含まれている。ビジネス英語を学ぶには、実際のビジネス場面で使われている英語表現に特化して学ぶのが理想的であり、既存の教科書頼りで

はなく、オリジナルのコンテンツに基づいて教えることが求められるビジネス分野の ESP にとって適切な教材であると言える。

授業では、学生にもなじみのあるさまざまな企業の英語版サイトの記事を取り上げ、企業経営に関する基本的な語彙や表現を増やし、国際ビジネスの場面で必要な読解、速読の基礎を学びながら、企業経営の基本的な知識と教養を身につけることを目指した。

受講生の意見調査から、Web サイトの活用について、ビジネス英語を通して普段あまり触れることのないマネジメントの視点や企業の営業活動以外のことを知ることができるという点で効果的であるのがわかった。また、実際のビジネス場面のニーズを反映した専門性の高い語彙や表現を習得できるという点でも評価された。しかし、記事の内容の難易度がやや高いということが指摘され、また、専門用語や表現を定着させるため工夫（例えば、口頭トレーニング、音読など）が必要であることなど、今後のいくつかの課題も明らかになった。

M057

Sept. 2/11:30-11:55/Bld1 R303

Effectiveness of Writing Homework Assignments in Listening-centered Classes

Y. Oguri (U. of Shiga Prefecture)

This study examined how effective writing as homework was in listening-centered classes. Non-English major students in Japanese universities usually have two 90-minute classes per week for their first and second years only. Though English is needed as an international communication tool after graduating from university, this limited classroom time is not sufficient for teaching the four skills. Therefore, to use the class time effectively and, at the same time, promote pre-listening activities, writing homework was introduced in listening classes.

A listening textbook designed for college-age Japanese learners at the pre-intermediate level was used. Writing homework was given to answer about 10 questions as a pre-listening activity to enhance schema and students' free expression on topics they were going to listen to. For the first lesson of the term, the students were told how to complete the homework tasks. Homework was collected at the beginning of the lesson and the previous lesson's homework assignment was returned with written feedback. Common mistakes made by the students were written on the board and explained by the teacher or students. Five to ten minutes were spent on this activity. Then the listening lesson would begin. Ten homework assignments were given among the fifteen lessons.

Effectiveness of homework was measured three times (April 6, June 1, and July 13) during the spring semester of 2010 by asking students to write freely for 12 minutes. Students' writing was evaluated by a native speaker of English using analytic scales which included content, organization, vocabulary, language use and mechanics such as spelling and punctuation. Paired t-tests were conducted to see each students' writing improvements. Vocabulary showed the least improvement among these five categories. Details of the findings will be presented at the conference.